

<別紙1>

第三者評価結果報告書

① 第三者評価機関名

株式会社ケアシステムズ

②施設・事業所情報

名称:ポピンズナーサリースクール横浜十日市場	種別:保育所
代表者氏名:園長 千葉初穂	定員(利用人数): 60名
所在地:〒226-0025 神奈川県横浜市緑区十日市場町1258番92クレールレジデンス横浜十日市場1階	
TEL:045-482-6274	ホームページ: https://www.poppins.co.jp/nursery/
【施設・事業所の概要】	
開設年月日:2019年4月1日	
経営法人・設置主体(法人名等):株式会社ポピンズ	
職員数	常勤職員: 14名 非常勤職員: 17名
専門職員	(専門職の名称)
	保育士: 19名 栄養士: 2名
	看護師: 1名
施設・設備 の概要	(居室数)
	(設備等)
	8室
	乳児トイレ、幼児トイレ、大人トイレ 2、調乳室、キッチン、更衣室2、園 庭、バルコニー、バギー置き場

③理念・基本方針

【企業理念】働く女性を、最高水準のエデュケアと介護サービスで支援する
【保育理念】人生で最も重要な時期の人間教育を目指します。
(人生で最も重要とされる乳幼児期において、養護を基盤とした教育を通じて子どもの最善の利益に資する保育を行います)
【保育目標】◎寛容な人間 ◎聡明で愛情深い人間 ◎探求心の旺盛な人間 ◎グローバル社会で活躍できる人間
【保育方針】
・ポピンズアプローチを実施し、子ども達が興味関心を持っているものを見極め、個々にあった発達を促します。
・保護者の思いを受け止めつつ、常に子どもの立場・視点に立ち、保育所保育指針に即した保育を行います。
【保育の方法】
(乳児)養護・保健的な側面に十分留意しつつ、身体的発達、社会的発達、精神的発達に関する視点から、愛情豊かで応答的な保育を行う。
(幼児)養護を基盤とした5領域を通じた教育に基づいて、個としての成長に加えて、社会の一員としての意識を育む保育を行う。

④施設・事業所の特徴的な取組

【ポピンズナーサリースクール横浜十日市場の特徴的な取り組み】

2019年4月新規開園からの2年目を迎えた今年度(2020年度)は下記の目標を立て、「新しい生活様式のもとでも、子ども同士が柔軟にのびのびとした生活経験を大切に」保育運営に取り組んでいる。

【2020年度十日市場ルーム保育目標】「健康な心身の備わった卒園児1期生の育成」(新型コロナウイルス感染拡大防止対策として求められる「新しい生活様式」実践との両立)

①食育活動 ②保健習慣 ③園外活動 ④室内活動環境<主体的・意欲的に取り組める×他児(同年齢・異年齢)とのかかわりを育める> ⑤保護者・地域住民との関わり
※十日市場再開地区の地域性も保育運営上配慮が必要であり、個々幼児への丁寧な対応や個別保護者対応及び、地域関係諸機関との細やかなチーム連携を実施している。

《ポピンズ教育・保育の特徴》

◎エデュケアプログラムによる、養護と教育の一体的展開。

<脳科学と発達心理学の知見を踏まえ、養護と教育の両方を重視し、0歳児からそれぞれの個性や特徴をのばす取り組みを行う>

◎ドキュメンテーションによる記録作成(お子様の育ちのドキュメンテーションカンファレンス実施。育ちを可視化し保護者と共有する)

◎ISO基準に則った安全対策の実施(事故対応マニュアル・災害対応マニュアル・不審者対応マニュアル・事故怪我等再発防止策)

⑤第三者評価の受審状況

評価実施期間	2020年7月1日(契約日) ~ 2021年4月15日(評価結果確定日)
受審回数(前回の受審時期)	0回(年度)

⑥総評

◇特に評価の高い点

・法人主導で園の運営レベルの向上を図っている

新園のため経験の少ない職員が多いことを踏まえ、開園年には園内研修においてポピンズアプローチの読み合わせを繰り返し行い周知と理解を進めるとともに、日々の保育の場面でも確認をしながら経営層・職員が一丸となり、法人が求める園運営を目指し取り組んでいる。

・家庭への伝達方法を工夫し、連携を図りながら保育を行っている

クリスマス会やスポーツデイ、誕生日会などの行事は、新型コロナウイルス感染予防の一環として保護者の参加ができなかったが、動画配信や掲示を行い、子どもの表情や行動、何気ない日常の様子を伝えるなどの工夫をしている。アンケートでも、「コロナで参加できない行事が動画で見れたり、臨機応変に対応してくれた。」などの意見が聞かれている。また、対面式の会話アプリ(Zoom)を通して歌を歌う、折り紙を折るなどのオンライン保育を行い子どもたちとのコミュニケーションの継続に取り組んでいる。

・子どもが楽しみながら食への関心を持てるように、様々な食育活動を行っている

季節感や素材の味を大切に、バランスのとれた給食の提供に努めている。乳児クラスでは、乳児期につかみ食べができるよう野菜スティックを提供して自らすすんで食べられるよう促している。行事の際は行事食を提供し、伝統的な食事や食文化を伝えている。また、食への関心を高めるため、食材に触れる機会を設けプランターでの野菜栽培を行

っている。毎月の献立の中から、おすすめメニューを3つ作成し、保護者に配信し、自宅で作ることなどで子どもとの会話のきっかけにもつなげている。

◇改善を求められる点

・園独自の中期計画の策定と周知が必要とされる

開園2年目となり、地域の状況把握も進んでいる中で、今後どのようにポピンズアプローチを実践していくかについて検討を始めており、そのロードマップとして園としての中期計画が必要とされる。また、中期計画に則った単年度の事業計画も、達成目標を明確にしたうえで策定が望まれ、さらに職員、保護者への周知に向けても取り組みが必要とされる。

・小学校就学へ向けて、見学や1年生体験など就学に向けての機会の設定が望まれる

幼児期の終わりまでに育ててほしい10の姿を意識した指導計画のもと、就学に対し期待が持てるような活動や声かけを心がけている。また、就学に向けて、午睡時間に代わり、「年長児の時間」を設け、平仮名や数字のワークの取り組みなどを行っている。更に小学校見学などを通して5歳児が遊びに参加させてもらったり、1年生体験などをするなど、年長児が就学にむけて期待を持てるような機会の設定が望まれる。

⑦第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

開設2年目に「第三者評価」を受審し、施設として以下のメリットがございました。

①施設長、主任、保育士、看護師、栄養士それぞれの立場で、認可保育所として取り組むべき全体像と多岐にわたる項目の確認ができたこと。②施設長、保育士、専門職が、自園の保育で大切にしている点や、特長などについて話し合い、まとめ、記載することで、前向きな自信が持てたこと。③全職員で来年度の運営計画作成のヒントを得ることにつながったこと。④中期計画の策定の重要性について気づかされたこと。（3年スパンで計画する）⑤保護者様アンケート結果やご意見から、園運営に対する保護者様の関心やご理解の高さを感じることができたこと。職員への感謝やあたたかいお言葉も多く頂戴し、職員の意欲と感謝の実感がより高まったこと。⑥コロナ禍で年度当初の計画（行事等）の変更（縮小・中止）を余儀なくされるなか、第三者評価を受審し、自分たちの取り組みを改めて見直してみるなかで、いろいろなことに工夫しつつ丁寧に取り組んでいることが検証でき、安心感と自信につながったこと。

最後になりますが、評価員の先生に丁寧に聞き取りをして頂くなかで、自分たちの思いを的を得た言葉で代弁して頂いたり、具体的にアドバイス頂くなど、客観的・多面的に「明日につながる」評価を頂き、感謝しております。

⑧第三者評価結果

別紙2のとおり